

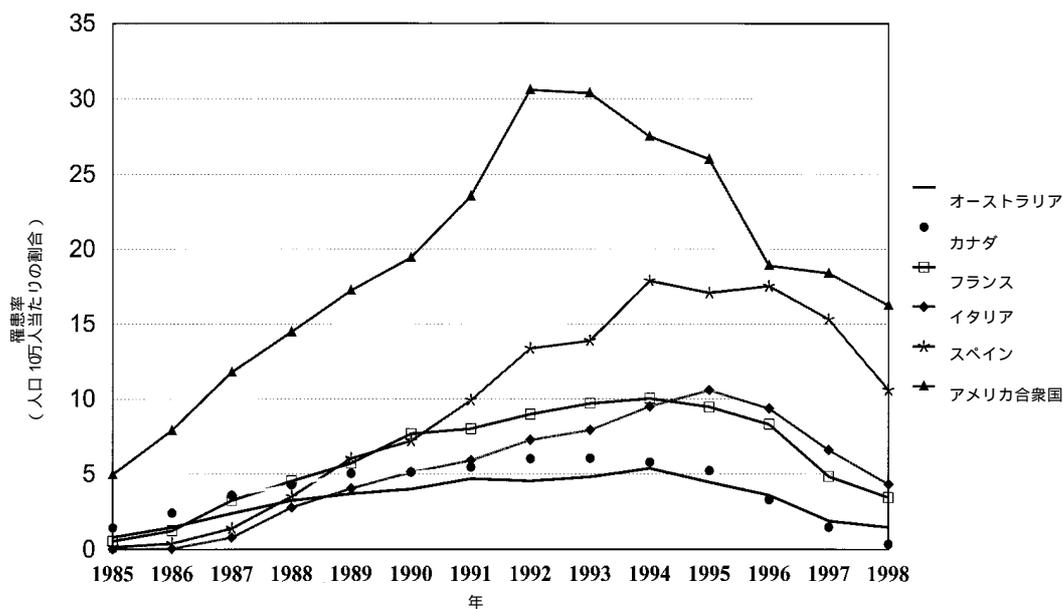
今週の話題：

<世界の AIDS監視体制 第 2部>

AIDSの分布状況を年齢と性別、及び感染様式によって詳しく分析しているが、種々の要因のためデータの解釈には注意を要する。AIDS件数に占める女性の割合は今やサブ・サハラ・アフリカ地区では 50% 近い。一方、他のすべての地域では AIDS発症件数のうち女性 1に対し男性 4である。最近のデータによれば、アフリカのいくつかの国では男性より女性の方が多い。

近年、感染様式は地域によってかなり異なる。例えば、サブ・サハラ・アフリカ地区では報告件数の約 90%が異性間感染による。その割合は他の地域ではずっと小さい。しかし、アジアやラテンアメリカや北アフリカ/中東では AIDS感染のかなりの数は異性間感染によるものである。先進諸国では異性間感染の数が増加していることに注目すべきである。先進諸国と東ヨーロッパ及びアジアでは薬物注射の使用による感染が高い比率を占めている。予防可能な輸血による感染は未だに多くの地域、特に中東で有意な数となっている。予防可能な周産期の感染はサブ・サハラ・アフリカ地区で重要な AIDSの原因の 1つとなっている。しかし小児の AIDSは、資源の少ない状況では、過小に報告されている。

図 1 図中の工業国における AIDS報告患者数の減少^a



^a1997年及び1998年の図は、報告の遅延のため不完全であるおそれがある。

先進諸国では、1995年から1996年に HAART (Highly Active Anti-Retroviral Therapy: 高活性抗レトロウイルス剤治療法) を導入したことによって、AIDS件数と AIDSによる死亡数が 70%以上も減少した。

表 1: 表中の国における、診断時の年齢、男性患者の割合及び最も最近の報告期間より見た AIDS報告患者数

図 2: 性別による AIDS患者報告数 (%)

表 2: 表中の国における、考えられる伝播様式、最も最近の報告期間より見た AIDS報告患者の割合

表 3: 考えられる伝播様式より見た AIDS報告患者 (%) (WER参照)

< フィジーにおけるコレラ >

Vibrio cholerae 01 エルトール小川亜型が、1999年6月にフィジーの沖合の島へ観光に行った26歳のニュージーランド男性に確認された。同じ観光地で感染したと推定される同様の事例があり、8ヵ月前にニュージーランド保健省によって調査されている。その時他の事例は見つからなかった。その後の調査でもコレラ患者は検出されていない。地下水の貯留穴の水サンプルにはVibrioparaahaemolyticus、V. mimicus 036及びV. cholerae 019の存在が確認されたが、V. cholerae 01は存在していなかった。現在、長短期における水資源の安全確保のための対策が既になされている。この島以外ではフィジーの水供給は一般的に安全だと考えられる。

流行ニュースの続報

インフルエンザ

1999年11月に、ブラジル、デンマーク、エジプト、フランス、アイスランド、南アフリカ、スウェーデン、英国及びアメリカ合衆国において、インフルエンザの流行の続報が報告された。

< デンマークでの抗菌剤使用の監視 >

デンマークでは全ての抗菌剤が要処方箋の薬物であり、薬店によって配布されている。1996年から人間における抗菌剤の使用は全て薬店で回収された処方箋を基に記録されている。しかし動物での使用についての同様の監視は行われていなかった。VETSTAT、Veterinary Medicine Statistics (家畜医薬統計)は、動物における処方薬の使用を監視するためのプログラムである。VETSTATの実施責任は、デンマーク人畜共通伝染病センターにある。プログラムの主要な目的は、抗菌剤の使用と耐性の発生との関係について研究するための基礎を提供すること、さらに食用動物での不必要かつ不適切な使用を排除するための基礎を提供し、予防手段と介入していく対策を支持することである。

< VETSTAT >

VETSTATは、個々の農家レベルで商業家畜に対する、血清やワクチンそして抗コクシジウム剤と成長促進剤をも含め、全ての薬物の治療的使用を監視しようとしている。

データの記録：商業家畜に使用するための処方箋を発行する際に、獣医は薬剤の名前や量に加えて農家の名前や動物の種類や年齢、処方の理由に関する情報を含める。薬店は日付や獣医の名前と共にこれらの情報をデンマーク医薬省に報告する。獣医が薬剤を商業家畜に使用したり農家に手渡したりする時には、動物の種類、年齢などを処方箋発行と同様にVETSTATに報告しなければならない。飼料製造所は薬品添加飼料と抗コクシジウム剤の各農家への販売を報告する。

スケジュール：薬店が2000年の3月1日から、1-2ヵ月遅れて獣医が、最後には、飼料製造所が7月1日からデータを報告し始め、2000年の終わり頃からはデータの質がそろうであろう。

調査研究：動物の種類や年齢や診断に関連した医薬の使用についての処方習慣の分析を含め、薬物疫学研究的基礎を築くことが期待される。抗菌剤の年間総使用量を比較するために、動物種ごとに1日の摂取量を明確にするように用意しなければならない。

記注：1999年12月2日現在のペスト、コレラ、黄熱の感染地域一覧表はWER参照のこと。

(山副津多子、松村末夫、石川雄一)